

調査月報 2017/04

目 次

A.台湾経済	1. 景 気 01	2. 物 価 01	3. 失 業 率 01	
	4. 通 関 貿 易 02	5. 鉱工業生産 02	6. 小売業売上高 02	
B.トピックス	国連開発計画の HDI 指数で台湾の豊かさは 27 位 03			
C.経済統計	台湾主要経済指標 04	物 価 指 数 06	雇 用 概 況 06	貿 易 統 計 07
	鉱工業生産指数 10	商業売上高伸び率 10	為 替 相 場 11	対台・对外投资統計 13

1.景気 2017年2月

a.景気総合判断点数

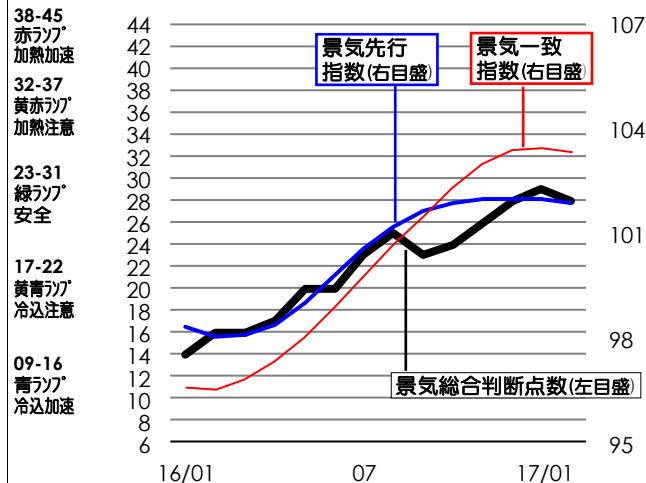
前月より1点下落し28点となった。景気対策信号は安定を示す「緑ランプ」を維持した。当局は、景気は緩やかな回復傾向にあり、上半期に加熱傾向に転じる可能性がありとの見方を示した。

b.景気動向指数

- ①景気一致指数(当面の景気動向を示す指数)
機械・電機設備輸入額、電力使用量、鉱工業生産指数等の減少で前月比で下落した。
- ②景気先行指数(数カ月先の景気動向を示す指数)
輸出受注指数、M1B等の減少で前月比下落した。

※SEMI=国際半導体製造装置材料協会
※M1B=現金通貨+普通預金+個人向け普通貯蓄預金+当座預金

図 A1.景気総合判断点数と景気動向指数の推移 出所:国発会



2.物価 2017年2月

a.卸売物価

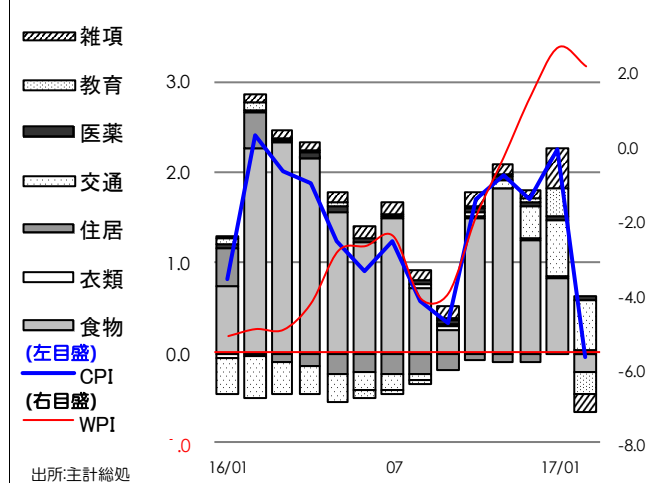
石化関連製品、金属、化学材料等の値上げを受けて、前年同月比でプラスで推移した。

b.消費者物価

野菜の大幅な値下がりに加え、比較対象となる前年同月の数値が旧正月連休で割高のためマイナスに転じた。主要分類別では、3項目が下落した。

- ①雑項類が保育等への謝礼金支払の減少で下落したこと
- ②教育娯楽類が旅行費等の値下がり で下落したこと
- ③食品類が野菜や卵類の値下がり で下落したこと

図 A2.物価指数上昇率と構成項目の寄与度 単位:%、前年比ベース



3.失業率 2017年2月

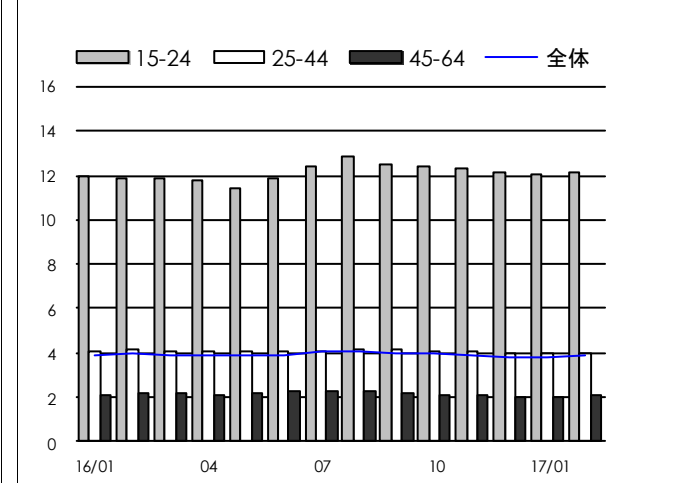
a.失業率:3.85%

前月より0.07ポイント上昇した。旧正月連休を境に転職に踏み切る人が増えたことや、臨時・季節性労働の終了による失業が増えたことで、失業者数は45万3千人で前月より8千人増加した。うち、季節性または臨時業務の終了等による失業者は4千人、仕事内容への不満から離職した人は3千人増加した。

b.就業

就業者数は、前年同月比+0.68%の1,130万7千人。業種別では、製造業は前年同月+0.44%の304万人、第三次産業は同+0.87%の670万人となっている。産業別就業者数の構成比を見ると、製造業26.85%、第三次産業59.23%、その他(一次産業+製造業を除く二次産業)13.92%となっている。

図 A3.失業率の推移 年齢層別 単位:% 出所:主計総処



4.通関貿易 2017年2月

a.輸出

- ①中国向けの電機機械の好調、ゴム・プラスチックや精密機器の増加
- ②アセアン向けの電機機械の好調、鉱物品や金属の増加
- ③韓国向けの電機機械の堅調、金属や化学品の大幅増等に加え、比較対象となる前年同月の実績が旧正月連休で低かったため、20%台後半の伸びをみせた。

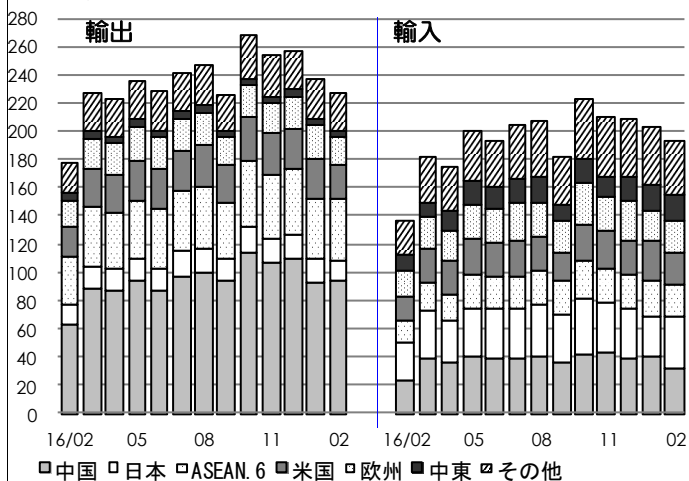
b.輸入

- ①日本からの電機機械の活況、金属や化学品の増加
- ②中国からの電機機械の活況、金属の大幅増
- ③中東からの鉱物品の増加等に加え、比較対象となる前年同月の実績が旧正月連休でやや低かったため、40%台の伸びをみせた。

c.収支

前年比ベースでは、黒字額は対中、対アセアンが増加、対米が減少した。赤字額は対日が増加した。対欧は赤字に転じた。

図 A4.輸出入 国別実績 億 US\$ 出所:財政部



5.鉱工業生産 2017年2月

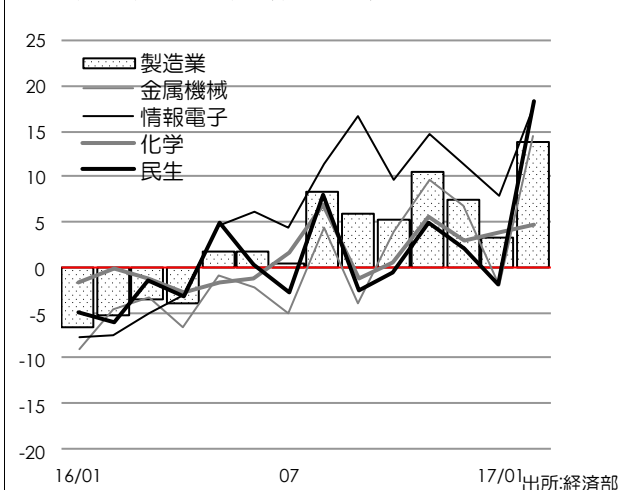
a.鉱工業生産全般

ICをはじめとする半導体関連の需要増が全体を押し上げ、液晶パネルも増産したため、前年同月比では7か月連続のプラス成長となった。当局は、今後の展望について、世界経済の回復に伴い、製造業の需要が増えるとみている。

b.製造業4大産業別

- ①金属機械
機械設備や鉄鋼の需要増があったため、プラスに転じた。
- ②電子情報
半導体関連製品の需要増等で2桁成長をみせた。
- ③化学
化学材料の増産等でプラスで推移した。
- ④民生
たばこや飲料等が軒並み増産したことでプラスに転じた。

図 A5.製造業4大産業別伸び率推移 単位%、前年比ベース 出所:經濟部



6.小売売上高 2017年2月

a.小売業全般

自動車関連、燃料業等は堅調な動きをみせたものの、総合小売業が前年同月は旧正月という要因で数値が高かったこと、暖冬による冬季商品の需要減が全体を押し下げたこと、マイナスに転じた。

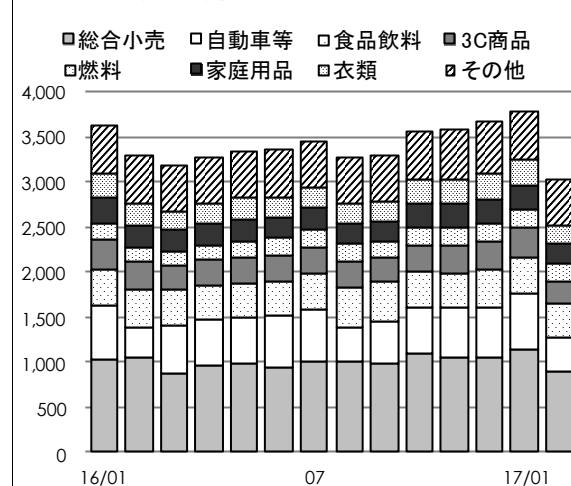
b.総合小売業

- ①百貨店 化粧品等の販売増があったが、上述の季節的な要因で20%台の減少となった。
- ②スーパー 上述の季節的な要因で減少した。
- ③コンビニ 旧正月用食品等の販売好調があったが、上述の季節的な要因で減少した。
- ④量販店 上述の季節的な要因で20%台の減少となった。

c.外食業

お正月商機があったが、比較対象の数値が高かったことで前年同月比でマイナスに転じた。

図 A6.小売売上高 業別 億 NT\$ 出所:經濟部

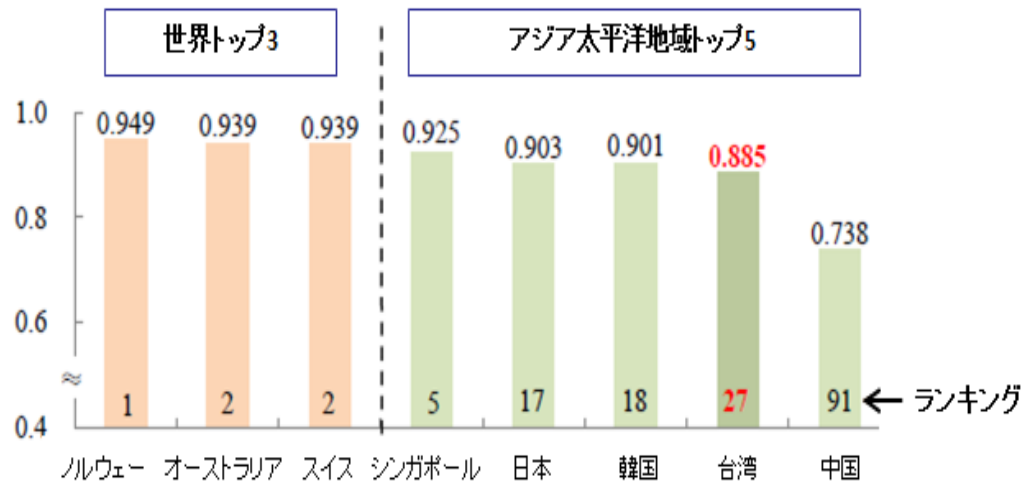


国連開発計画の HDI 指数で台湾の豊かさは 27 位

出所：行政院主計総処

- ◇4月下旬、台湾行政院主計総処が国民生活の豊かさを示す「人間開発指数（HDI）」を台湾に当てはめて算出した結果によると、同指数の最新のランキングで189の国・地域中トップ3はノルウェー、オーストラリア、スイスで、台湾は27位であった。
- ◇アジア太平洋地域では、台湾はシンガポール（5位）、日本（17位）、韓国（18位）に次いで4番目に高い順位となった。
- ◇男女共同参加の推進状況を数値化する指標—人間開発指数（HDI）について
 - ・保健（長寿で健康場生活）、教育、所得の状況を評価する指標
 - ・出生時平均寿命、予想就学年数、平均就学年数、1人あたり国民総所得（GNI）のデータを用いて指数を算出する
 - ・HDI 値が0に近いほど、国全体として貧困が課題となっている可能性が高い

人間開発指数2015年ランキング(国・地域別)



HDI指数を測定する指標(2015年)

指標	データ時点	結果
出生時平均寿命	2015年	80.2年
予想就学年数	2015年	16.3年
平均就学年数	2010年	10.7年
1人あたり国民総所得(GNI)	2015年	45,582USドル